

地域との連携

地域との新たな連携基盤づくり

北海道内4高専と地方銀行との連携

キーワード：金融機関・産学官金連携・技術相談・インターンシップ

本事例の関係者

苫小牧工業高等専門学校
函館工業高等専門学校
釧路工業高等専門学校
旭川工業高等専門学校
北海道銀行、北洋銀行
苫小牧信用金庫
室蘭信用金庫

文部科学省産学官連携
コーディネーター

包括連携による人材育成と企業技術支援

【要約】

苫小牧高専は、平成17年に苫小牧信用金庫と「産学連携基本協定」を締結し、平成19年には苫小牧地域の産学官金10機関の連携による、ものづくり産業の振興を目指した取り組みとして「苫小牧地域ものづくり産業振興のための産学官金連携協定」を締結した。平成18年4月に苫小牧高専の支援担当となったコーディネーターは、平成19年度より実行委員会委員として活動を支援している。

函館・苫小牧・釧路・旭川には、工業高等専門学校が設置されており、コーディネーターはこれら4高専の連携支援も行っている。学術の発展と地域経済産業の発展に貢献すべく、北海道銀行、北洋銀行との包括連携の締結を強く支援して、包括連携による人材育成事業で「ものづくり企業見学ツアー」や共同研究、連携によるイベント参加、出前技術相談に伴う企業支援などを推進している。

【きっかけ】

苫小牧工業高等専門学校は苫小牧地域の産業技術振興のために、地域の金融機関、すなわち、苫小牧信用金庫、室蘭信用金庫、北海道銀行苫小牧中央支店、北洋銀行苫小牧中央支店との産学官金連携による上記の連携協定を締結した。このことにより、地域産業の振興に貢献する基盤づくりができた。コーディネーターは、これからの産学官連携に金融機関との連携は不可欠であると感じ、北海道内4高専の地域に拡大すべく、平成19年、北海道銀行と北海道内4高専との間で産学連携協力協定を支援し調印となった。また、平成20年、北洋銀行と北海道内4高専との間で産学連携協力に関する協定を強く推進し、調印へと支援した。

【段取り・プロセス】

コーディネーターは、平成19年度、北海道銀行と道内4高専の包括連携に向けた支援を開始した。それぞれの包括連携に対する期待は次のとおり：「学」は人材育成支援と教育研究の活性化であり、「金融機関」は地域産業の活性化のための道内4高専の積極的な技術支援であった。

道内4高専と北海道銀行の産学連携協力協定事業の一環として、平成20年8月に北海道銀行の主催で「ものづくり企業見学ツアー」を実施した。優れた技術をもつ4企業を訪問し、ものづくりの現場を体験した。見学風景を図1に表す。

平成20年度、道内4高専と北洋銀行との産学連携に関する協定書の締結を強く支援した。その目的は北海道内の中小企業を対象として、地域社会における技術開発、技術教育を支援するとともに、新事業の創出など地域の産業振興に寄与することである。予定事業として、①道内4高専の連携強化と産学連携のための活動支援、②自動車産業等、ものづくりに関連した北海道内中小企業の人材育成事業の支援、③民間企業等との共同研究、受託研究等の実施、④技術相談、科学技術情報に関する講演会、セミナー、見学会等の実施、⑤高専発ベンチャー等新事業創出のための技術移転、である。

【成果・結果や活動後の変化】

高専所在地の中央支店の渉外部の方々に高専教員を紹介し、金融機関担当者が教員に直接相談できる体制をそれぞれの地域で構築した。

この包括連携により、金融機関から4高専への技術相談が容易になり、地元企業からの相談件数が要請が増大している。コーディネーターは、金融機関担当者とともに技術相談に対応し、最適解決に向けた方策を高専、公設試などの支援を得て対応している。



図1 ものづくり
企業見学ツアー

高専連携支援事例

H20年06月
北海道洞爺湖サ
ミット記念環境
総合展

H20年08月
ものづくり企業
見学ツアー

H20年11月
北海道技術・ビ
ジネス交流会

成功の事例

人材育成支援と地域に根ざした共同研究

●道内4高専の連携強化

北海道洞爺湖サミット記念環境総合展がサッポロドームで開催され、道内4高専の連携で、環境関連研究の取組を展示し、高専の存在をPRした。銀行のリソースを活用した、インターンシップの取組支援や夏季休業中の北海道内4高専の3年生を対象とした「ものづくり企業」の見学合宿も実施した。参加者からはとても良い体験ができたと好評であった。11月に行われた「北海道技術・ビジネス交流会（ビジネスEXPO）」への合同出展支援、「北海道ビジネスフォーラム平成21」への出展支援も行い、連携強化に貢献した。

●高専所在地の地域発展を目指した取り組み支援

地域の活性化を目指した産学官連携活動を展開する中で、効率の良い企業ニーズ情報と学のシーズとのマッチングがはかれるよう、高専所在地の地域金融機関と連携した具体的な方策と試行を含めた共同研究を開始した。企業ニーズの収集と解決に向けた取り組みを実践し、高専の連携がより強固になってきている。

苫小牧地域においては、自動車関連産業が集積し、「ものづくり」産業の中核として期待されることから、その拠点として、課題、問題点を抽出し、その解決策を模索する共同研究も開始した。その対応策を検討し地域貢献へと繋げていく。

地域との連携



図2 ビジネスEXPO

失敗の事例

遠隔地での連携支援の困難さを実感

●コーディネーターは裏方に徹するべきだったと思っている

北海道内4高専は、苫小牧高専を中心に半径230km～350kmの間に点在している。協定内容の調整や調印に向けての具体的な対応に、コーディネーターは各高専に出向いて、連携についての取り組みの内容の検討等積極的に支援した。早期の締結により、産学連携による企業支援の円滑化が期待できるための行動である。

組織を動かすためには、その機関に応じた手順を踏む必要があり、急ぐあまり、それを省いた行動をとることにより、無駄な時間の浪費を体験した。

組織が大きくなればなるほど、連携協定の締結も、想定した以上に時間が必要である。北海道工業試験所は前職からの関係で支援を得ており、平成21年度の連携協定の締結を検討している。また、JST、ノーステック等とも連携を検討しており、大きな組織の北海道との手続きには、今回の取り組みを踏まえて、粘り強い支援の中で、締結・調印へと進めようと思っている。

成功と失敗の 分かれ道

素晴らしい人間関係の構築と、地域へ貢献する情熱の大きさの有無と考える。

産学官連携の新たな展開に向けた提言

成果をあせらず、日々喜べる取り組みを

産学官金連携による取り組みで、企業にとって歓迎されるのは、種々の問題に対して、早期解決、早期開発ができた場合である。学の活用による対応では、それに対応する自由な時間を十分に確保している研究者は存在しない。特に、高等専門学校の実験室は、学生指導、課外活動や寮生指導に時間の多くを費やしている。その中で時間を作り、企業支援の努力をしている教員には頭が下がる。地域貢献が期待できる取り組みや、未来展望の明るい取り組みは、北海道大学や公設試などの支援を受けながら推進できるよう配慮している。

大きな成果を焦らず、日々夢を持ち続けられるような支援活動をするのもコーディネーターの活動の一部と思っている。

産と学がお互いを理解しあい、信頼される環境づくりには、金融機関との連携が大きく貢献している。金融機関のリソースを活用した取り組みにより、信頼できる人間関係の構築に大きく貢献し、お互いが喜び合える展開へと進展している。

☆コーディネーターの一言

多忙な教員が地域貢献に参画するための支援を続けている。地域に役立つ高等教育機関として多くの企業に信頼される環境づくりに貢献したい。